

福祉の最前線、

意見交換会「議会と話そう」開催

あそか苑を訪ねて



令和8年2月13日、介護現場の声を聞き、政策に活かすことを目的に特別養護老人ホーム「あそか苑」を訪問しました。議員9名が施設見学を行い、職員14名と意見交換を行いました。
ご参加いただいた職員の皆様、ありがとうございました。



施設見学を通じて

老朽化が進む浴室やトイレ、居室等の見学をしました。職員の皆様は限られた設備の中で、利用者が少しでも快適に過ごせるよう細やかな工夫を凝らしていました。

改修が必要な箇所の現状を議員全員で共有し、今後の改修計画の進捗を議会としてもしっかりと注視していく決意を新たにしました。



▲施設内見学（左：浴室 右：特殊浴室）

現場の現状と変化

現場では、研修等を通じた職員の意識向上が図られており、サービスの質の向上に向けた取り組みが進められていました。

また、年間休日を従来の98日から110日に増加させるなど、労働環境の改善が進んでいます。

さらに、職員同士が普段から声を掛け合い、チームワークを大切にされて業務に励む姿に大きな感銘を受けました。

加えて、経験豊富な町外職員の増加により、多様な視点やノウハウが現場に取り入れられ、より良い支援体制の構築が進められています。



ICT・機器導入

iPadやベッドセンサーの活用により、夜間の見守りや情報共有が効率化され、離職率の低下にもつながっています。しかし、それでも入浴業務の負担は重く、さらなる適正配置や設備改善が求められています。

食事・利用者の楽しみづくり

施設では、手作りの温かい食事の提供に努めるとともに、入所者一人ひとりの嚥下能力に合わせた食事形態に配慮し、安全で安心な食事環境の充実に努めており、利用者本位の姿勢に感銘を受けました。

また、コロナ禍で減ったレクリエーションを回復させ、入所者の生活の充実につなげていきたいという想いを伺いました。



地域とのつながり

施設では、仮装盆踊りや雪だるまコンクールなど、地域行事への参加などを通して住民との交流を図り、地域に開かれた運営に努められています。

また、デイサービスの体験会や見学会などを通じて、新たな利用者の確保につなげたいとの声も上がりました。

施設の将来像

現場からは、外国人人材の受け入れや、職員の専門性を高め、サービスの質を維持・向上させるための資格取得費用の公的助成の必要性について声が上がりました。

さらに、老朽化した厨房・浴室・トイレの改修や、近年の猛暑に対応するエアコン増設を望む声も上がり、利用者・職員双方にとって安全で快適な環境が必要不可欠だと感じました。

2040年の高齢者人口のピークを見据え、効率的な運営体制を構築するとともに、職員の皆様からは地域に開かれた施設づくりを進め、住民の皆様が親しまれる場所を目指したいという熱い想いを伺うことができました。

議会としての今後のアクション

① 予算・制度への反映
大規模改修計画の進捗を確認し、必要な予算措置について質疑を通じて検討します。

② 人材確保・資格取得支援
人材確保と育成支援の在り方について、町制度も含め議論します。

参加者アンケートの結果

満足度 92%

「自分たちの声が届いていると感じ、励みになった」との声をいただきました。

議会への期待

参加者の多くが「議会を傍聴したい」と回答。透明性の高い議会運営に努めます。

ご協力ありがとうございました 参加者インタビュー

議員の皆様と「議会と話そう」というテーマのもと、比布町に住みやすいまちづくりや、町にどのようにして人を呼び込むことができるかなど、様々な「比布町の将来」について、気軽に話せる雰囲気の中で意見交換をさせていただきました。環境づくりや交流・集客のあり方について幅広い意見が交わされ、大変有意義な時間となりました。

今後は、より多くの町内外の皆様にもぜひ参加していただき、意見交換を重ねることで、「比布町のさらなる発展」につながっていくことを期待しております。

介護主任

あんざい みつよし
安齋 実芳 さん



「議会と話そう」に参加させていただき、ありがとうございました。

比布町議会議員の皆様とお話するのは初めてでしたが、様々な意見交換を行うことができ、大変有意義な時間となりました。

今後も、議会ならびに役場の皆様と連携・協力しながら、比布町の高齢者福祉の充実と発展に取り組んでまいりたいと、改めて感じております。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

介護副主任

もり あきのり
森 彰範 さん

